

黒潮

和歌山県看護協会 会報

平成27年1月発行

第130号

発行所

和歌山県看護協会

〒641-0036

和歌山市西浜1014-27

TEL:073-446-0605

FAX:073-446-0899

<http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp>

発行人

古川 紀子



あけましておめでとうございます (広報委員一同)

CONTENTS

- 新年のごあいさつ 2
- 瑞宝単光章受章者 2
- ナース章受章者のことば 3~4
- 保健師のコーナー 5
- 助産師のコーナー 5
- 看護師のコーナー 5
- 在宅看護推進委員会研修会 6
- 「認定看護管理者ファーストレベル
教育課程」の受講を終えて 6
- 認定看護師教育課程 7
- 医療安全対策委員会の報告 7
- 平成26年度和歌山県自殺対策緊急強化事業
「こころとからだの悩み相談」を開催します 7
- 医療安全数珠つなぎ 7
- 専門認定看護師のコーナー (トピックス2015) .. 8
- 地域連携のコーナー 8
- 訪問看護ステーションだより 9
- リレーエッセイ 友達の輪 9
- 私の〇〇 9
- My Hospital 10
- 和歌山県看護協会の動き 11
- 潜在看護職員復職支援研修を開催 11
- 平成27年度 改選役員、推薦委員および平成28年度日本看護
協会代議員、予備代議員への立候補・推薦について 11
- 知って得する看護協会だより 12
- プレゼント 12

和歌山県看護協会 会員数

平成27年1月10日現在

会員総数	5,451名
名誉会員	1名
保健師	128名
助産師	195名
看護師	4,908名
准看護師	219名

新年のごあいさつ

公益社団法人 和歌山県看護協会 会長 古川 紀子



会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

和歌山県看護協会は、公益社団法人としてスタートしてから3年を経過し、様々な事業に取り組んでいるところです。日頃から会員の皆様のご支援とご協力をいただき、協会活動が円滑に推進できますことに対し、心から厚くお礼を申し上げます。

現在、県民の皆様が、地域でいきいきと安心して生活できる環境づくりが求められており、看護職の役割が拡大し、一層重要となってきております。

今後、「看護の質向上」、「看護職が生涯を通して安心して働き続けられる環境づくり」、「人々のニーズに応える看護領域の開発・展開」を使命として、精一杯活動してまいります。

平成27年度は大きな節目の年となります。まず、「新看護研修センター建設」に関しましては、会員の皆様に大変ご負担をおかけしているところです。3月末に新看護研修センターに移転し、4月には業務を開始することになります。充実した研修、交流、災害支援、

地域交流など公益社団法人として、期待される役割が発揮できるよう努めてまいります。

二つ目として、「救急看護」分野の「認定看護師教育課程」を開講いたします。当協会は、昨年11月に認定看護師教育機関として日本看護協会から認定を受けることができました。開講期間は、平成27年9月から平成28年3月までの7か月間で、定員は30名を予定しています。募集要項はホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

さて、団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向け、看護を取り巻く環境も「治す医療」から「生活を支える医療」へ、「施設」から「在宅」へと保健・医療・福祉制度は大きな転換期にあります。この変革の時代にうまく対応するため、行政はじめ各団体、医療機関等との連携を密に取り組んでまいります。

今年も、公益社団法人和歌山県看護協会の会員の皆様の看護への熱い思いを結集し、よりよい看護が提供できるよう積極的に事業を推進いたしますので、会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いいたします。



「瑞宝単光章」を受章して



稲田病院 林 敬子

秋晴れの中、11月15日、皇居豊明殿において、天皇陛下に拝謁して参りました。今年1月初旬、看護協会の木村前会長より叙勲推薦の連絡を頂きまして、提出書類等の準備にはいりました。

書類は多岐にわたり、木村前会長には協会会長としての業務多忙の中、ご尽力いただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

私にとりましては、看護師としての歩みを振り返る良い機会となりました。

中でも日赤看護専門学校入学時の事です。フローレンス・ナイチンゲール記章の受章された大先輩が、二人おられました。当時の看護婦監督（看護部長）国部ヤス工監督（大正11年2月受章）、教務主任の戸沢セイ先生（昭和11年2月）。監督さんは物腰のやわらかいやさしい方で、よく病棟を巡回されておられました。

戸沢先生は赤十字精神を体にあふれさせた、真っ直ぐな方でした。最近をよくこのお二人の在りし日を懐かしく思い出しています。

40年余り、赤十字の看護師として歩んで参りましたが、どの職場においても人材に恵まれ、幸運な道のりだったと思っています。

今は、稲田病院において週2回看護管理業務に携わっております。地域医療に関わる事で、また、新たな学びをもらっております。

看護師を続けられることの幸に感謝して、一句 「冬ぬくし 看護一筋 栄をうけ」 敬子



ナース章を受章して



国保日高総合病院 副看護部長 谷 真理子

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜りましたことは、この上もない喜びであり身の余る光栄でございます。ご推薦くださいました国保日高総合病院の皆様へ心から深くお礼申し上げます。また、今まで好きな看護の仕事をする事ができたのも、良き諸先輩・同僚・後輩に恵まれ、家族の支えがあったからと深く感謝しております。

昭和51年和歌山県立高等看護学院を卒業後、国立療養所和歌山病院に就職して3年半、セミナーの仲間と「患者中心である看護の考え方」を一緒に学び、現在の私の看護観を培う基礎ができました。その後、出産・育児のため退職し、2年半経過後多くの診療科がある国保日高総合病院を選び、昭和57年に再就職して医療の日進月歩を肌で感じながら

32年が過ぎました。

精神科・外科病棟・内科病棟・外来勤務に従事し、患者さんから看護の素晴らしさを教えていただき、一方他職種の皆さん方との連携をとりながらの看護を経験することができました。平成元年に主任看護師・平成14年に看護部長・平成24年に副看護部長に就任し、看護師の教育を主に実施してきました。そのなかでも平成26年4月の日高看護専門学校の開校に向けて、看護学校の準備室の教員とともに看護師の教育や実習環境を整えられた事はとてもうれしい出来事のひとつでした。看護師不足が深刻な国保日高総合病院でしたが、3年後卒業生が就職してくれるようになれば、看護師不足が解消され、より一層地域の皆様に親しまれ、信頼される病院の実現ができると思います。

今回の受章を励みに一層後進の指導に努力していきたいと思っておりますので、ご指導をよろしく申し上げます。



日本赤十字社和歌山医療センター 寺前 和美

この度、和歌山県ナース章を賜り、身に余る光栄に存じます。ご推薦いただいた関係者の皆様方に心からお礼申し上げます。また、これまで私を支えて下さった上司・同僚、後輩、家族に感謝いたします。

再入職後、28年が過ぎました。その間、小児科、脳神経外科を経験させていただき、今は、医療連携室で退院調整看護師として、院内はもとより、地域の医療機関、福祉関係の皆様へ助けていただきながら退院支援を行っております。「どこでどのように過ごしたいのか、どのように過ごさせてあげたいのか」、患者・家族の意向を大切に、意思決定を支援できるよう一層努力して参りたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。



医療法人曙会 和歌浦中央病院 山家 久登美

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜りありがとうございます。推薦して下さいました関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。看護師として勤務を始めた頃は、このような章をいただけること、こんなに長い間看護師を続けること、夢にも思っておりませんでした。多くの患者様との出会いで、学びややりがいを感じる事ができたこと、幸せに思います。様々な場面を思い浮かべると反省や後悔もありますが、それが自分の成長に繋がったと今は思うことが出来ます。

今後とも自分の出来ることを考え患者様に安心感を持っていただけるよう精進していきたいと思っております。ご指導よろしくお願い申し上げます。



国保野上厚生総合病院 阪井 順代

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜りましてまことに有難うございます。「ナース章受章」のお知らせをいただいた時、「なぜ、私が」と信じられない気持ちでした。これもひとえに上司の方のご指導の賜物と感謝すると共にご推薦下さいました関係者の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

いただいたこの章を汚さぬようこれからも地域中核病院に勤務する一員として、専門職としての責務を全うする様日々努力して参りますので今後ともご指導・ご鞭撻賜りますよう重ねてお願い申し上げます。



和歌山県難病・子ども保健相談支援センター 山本 美代

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り、身に余る光栄に存じます。ご推薦くださいました、関係者の皆さまをはじめ、これまでご指導ご支援をくださいました先輩上司や同僚、多くの皆さまに深く感謝申し上げます。

昭和52年に就業し、市町村駐在・保健所での母子保健や健康づくり、難病・疾病対策などの地域保健活動、看護教育・看護行政での人材育成等の経験を通じて、人と出会い、つながり、地域住民や市町村、関係する方々と協働し課題に取り組むことの大切さなど、多くのことを学ばせていただきました。

これからも専門職の役割を果たせるよう研鑽に努める所存です。なお一層のご指導をよろしくお願い致します。



日本赤十字社和歌山医療センター 中尾 ひろみ

持続可能な医療・介護提供体制の実現のため、病院・病床機能を何にするのか？将来を見据えながらの検討の真最中に飛び込んできた受章のお知らせ！本当に大きなサプライズで皆様に感謝し切れない自分があります。今まで、本当に只、目の前の対象者にありのままに精一杯寄り添い、向き合い、可能な限りの看護実践をしてきたのですが、素直に喜ばせて下さい。「看護に携わるのを継続し自身の看護活動がここに結びつく、看護人生集大成の素晴らしい章」と友人から祝福され、「益々、私たちの看護が必要とされる将来」に向け、精一杯持てる力を発揮していきたく改めて決意し、同時に“生涯看護専門職”という言葉を胸に、また、明日に向かいます。



和歌山県立医科大学附属病院 塩田 美知代

この度は「和歌山県ナース章」の栄誉を頂戴いたしました。これまでご指導頂いた諸先輩方をはじめ同僚や周りの方々に支えられて、今日までナースの仕事の続けることができました。今回の受章は、皆様のお蔭と深く感謝申し上げます。医療技術が進歩している現代に比べ、人の力に頼る時代からスタートし、情報を得るツールは対話と観察眼を軸とし、知恵を駆使した看護を実践していました。医学の進歩と共に看護の在り方も随分と変わり、臨床現場は著しく変化しています。今後とも医療の質に貢献できるように役割を果たしたいと考えています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



医療法人 愛晋会 中江病院 亀田 美恵子

この度、和歌山県ナース章を賜りましたこと深く感謝いたします。今迄、私を育てて下さった恩師、諸先輩方、仲間への感謝の気持ちと、これから残された時を患者様のために精一杯看護への苦難に努力してまいります。平成3年中江病院へ就任し、医業と看護が一体となり、患者様のために日々息つく間もなく頑張つてこられた先代の院長先生とお仕事をさせて頂き、本当にこの業に携わって良かったと思う日々が過ぎ、このような栄えある章を頂いたことに感謝の気持ちで一杯です。超高齢化社会に心より看護の手を差し伸べる看護職への一途となるよう、今後も日々研鑽を積み後輩育成のために努力してまいります。今後ともご指導よろしく申し上げます。



労働者健康福祉機構 和歌山労災病院 前田 悦子

この度は、ナース章の受章をいただきありがとうございました。34年間の永きに渡り、看護師の仕事の続けることができたのは、上司、先輩、同僚、そして家族の支えのお陰と感謝しております。振り返りますと、8年間の看護師、18年間の看護師長補佐、3年間の医療安全管理者、7年間の看護師長、それぞれの職務を果たすことを通して自身の自己成長につなげることができたと思っています。看護の役割拡大が進められている中で、それを担うことができる人材育成を目指し、微力ながら努めてまいります。



南和歌山医療センター 出立 加代子

このたび、栄えある和歌山県ナース章を頂き、身に余る光栄でございます。また、ご推薦いただきました助産師会の皆様に心から感謝申し上げます。平成18年12月、在職しております南和歌山医療センターにおいて、産婦人科が集約され、常勤医師が不在となりました。そこで、先輩助産師3名と共に「産婦に寄り添う産」をモットーに院内助産院を開設しました。産婦人科医不在での助産業務は誰も経験がなく、大きな不安もありましたが、妊婦さんの「ここで産みたい」という言葉に後押しされ、また、中井院長はじめ、院内職員、地域の開業助産師の先生方等、多くの方々に支えられ院内助産院の開設が実現しました。現在は、助産師一人となりお産は扱っていませんが、今後も、女性が「妊娠・出産・育児が楽しい」「子供を産んでよかった」と思えるよう、また、女性のライフサイクル各期に援助できる助産師をめざしたいと考えております。

保健師のコーナー

保健師職能委員 天野 多 真



あっという間に二年目になりました。職能委員になったことで、私自身は看護協会の動きや日々の保健師業務についてこれでいいのか常に意識するようになっていますが、保健師職能についても地元の保健師に伝えていかななくてはならないと思っています。今、私自身の活動は地区担当中心です。日々業務に追われているのが現状ですが、中でも長年引き継がれてきた事例でも高齢化が進み、複雑で支援困難になっているように思います。

さて、今年は保健指導ミーティングで厚生労働省の保健指導技術開発事業の「実践力アップ事例検討会」を取り入れ

ました。事例検討会には仲間の知識や知恵を結集し、ネットワークの必要性や対応のタイミング、手段などを検討し、一定の合意が共有されることで、「対象事例に対して、より効果的な支援を提供し、その状況改善に向けて行動できる」という目的があります。家族全体をとらえ、個別支援の積み重ねを地域集団の支援につなげ、地域・集団の支援から新たな資源を見出し、個別支援に活かしていくことも必要とされています。保健師がそれぞれに本当に多くの困難な事例を抱えています。事例検討会の機会を大切に、保健師同士、または多職種が連携し、地域や住民に向き合い、寄り添い支援していきたいと改めて感じています。

助産師のコーナー

助産師職能委員 津村 美穂



平成 27 年 8 月、助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証申請開始です。福井トシ子常任理事は、平成 26 年度重点政策・重点事業を「助産実践能力強化とその体制整備」としています。「助産師の就業先偏在の是正への提案」として「助産師出向支援ガイドライン（確定版）」作成や助産師の適正配置の提言「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）」の運用・評価に向け、普及啓発などが各地で行われています。

職能委員会では、平成 27 年 8 月の認証申請に先立ち、今年度は助産実践能力認証制度の推進、クリニカルラダーレベ

ルⅢの認証制度の普及と申請時の必須研修企画に取り組んでいます。和歌山県で、1 人でも多くの会員の皆様に申請をしていただけるよう、申請時の必須研修項目の CTG やフィジカルアセスメント、輸液ポンプの使用方法、助産記録などの研修を行っています。今年度は、来年の申請書類の準備期間でもありますので、必須研修はたくさんの方に受講していただけるように企画しています。研修項目が同じ研修の場合もありますがご了承ください。充実した研修となるよう企画していきたいと思っています。申請に向けて、引き続きポートフォリオの準備をお願いします。準備中でわかりにくい点多いことと思いますが、不明な点がありましたら職能委員に問い合わせいただきますようお願いいたします。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅰ 藤井 かおり



看護師職能委員会Ⅰの活動に参加させて頂き 2 年目になります。当初は右往左往するばかりでしたが、ようやく活動内容を把握できる様になり、何とか迷惑をかけない程度に動いているかなという感じです。

今、病院で勤務する看護師は非常に厳しい現場環境に置かれています。私たちは、看護師が健康かつ安全に働き続けられるために現場の問題を把握し、労働環境の改善に向けて取り組んでいます。そのひとつとしてワーク・ライフ・バランスについての学習、事業所間の意見交換、さらに和歌山県下における課題分析のためのアンケート調査などの取り組みをおこなっています。また 2025 年に

向けて、患者の在宅療養を支援できる看護を展開することが求められており、具体的課題と現状把握に取り組んでいます。

さまざまな研修も企画し、看護の質の向上や専門職としてのキャリアアップができるよう取り組んでいます。研修会では、いろいろな施設の方々との交流で情報交換をおこなったり、業務上の悩み相談の場になったりと、自施設での問題点の解決のヒントになることもよくあります。これらの研修会で諸先輩方から受けるアドバイスは、「看護実践の中に生かせる貴重なものだ」との感想もたくさんいただいています。

2015 年 1 月には“准看護師研修会”、2 月は“男性看護師交流会”、3 月は“専門看護師・認定看護師交流会”の開催を予定しています。多くのみなさまの参加をお待ちしています。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅱ 佐藤 房子



今回、初めて看護師職能委員会Ⅱの委員をさせて頂くことになりました。以前地区支部の委員をしてから 14 年が経ちました。また違う方向から参加できることをうれしく思います。職能委員会Ⅱは訪問看護や施設で働いている看護師を対象に質の向上を目指すということで私にとっては二重の喜びです。今まで、施設の看護師を 14 年間していましたが、施設看護師対象の研修が少ないのが現状でした。考えてみれば、施設にとって看護師は配置基準が少な

く、研修があっても参加できない状況がありました。ただ県の研修が時々あったときは、集まろうと思えば、数十人は来られる事も知りました。看護協会に対しては、施設の看護師対象の研修をしてほしいといつも希望をしていました。

2 年前からやっと職能Ⅱが立ち上がり楽しみにしていた時、委員の話を頂き、嬉しさ半分、責任半分と大きな役割を頂いたと同時に、在宅や施設で働いている看護師の皆様にとって参加してよかったと思って頂ける研修内容を考えて行かなければならないと思っています。微力ではありますが、皆様とともにがんばっていききたいと思っています。

在宅看護推進委員会研修会「もっと身近に看看連携」

在宅看護推進委員長 木村 晴美

在宅看護推進委員会では、「もっと身近に看看連携」をテーマに紀北地区と紀南地区の二箇所ですべて病院・施設・訪問看護ステーションの看護師、潜在看護師を対象に研修会を開催いたしました。

11月1日の紀北地区研修会では、63名の参加がありました。「看取りと連携」をテーマに安川診療所院長 安川修先生の心に染みわたるお話と歌やギター演奏の演奏で開催されました。内容の一部をご紹介しますと「20年前は家で看取りをしていた。大切な人を家で見送るとい文化があり、子供のときから肌で死を感じていた。大切な人を家で見送るとい文化があり、子供のときから肌で死を感じていた。死を納得し受け入れることが出来ていた。今は、病院から地域に帰される時に、説得されるが本人や家族は納得できていない。しかし、看護師さんが中心となって終末期に関わることにより看取りの文化を取り戻すことが出来る。」と語られておられました。講演後の交流会はワールドカフェ方式で「自分はどのような最期を迎えたいか」「家族をどのように看取りたいか」の2つのテーマで話し合いました。

12月13日の紀南地区研修会では37名の参加がありました。「つなぐ看護の実践」をテーマとしたシンポジウムで南たえこ氏（ハッピーライフ代表取締役）を座長に地域医療連携室の立場から藤若由紀子（白浜はまゆう病院）、病棟看護師の立場から田中恵津子氏（紀南病院）居宅介護支援専門員の立場から杉若美津子氏（竹村居宅介護支援事業所）保健師の立場から前地伸浩（新宮保健所）訪問看護ステーションの立場から鈴木初美氏（訪問看護ステーションのぞみ）が登場され、「つなぐ看護の実践」をあつく語っていただきました。シンポジウム後のワールドカフェ方式による交流会でも、活発な意見交換ができました。今後もますます看看連携はもとより多職種間の連携の重要性を実感しました。



「認定看護管理者ファーストレベル教育課程」の受講を終えて

海南医療センター 山裾 直子



平成26年度は50名が受講し、150時間のカリキュラムを無事終了し12月2日、閉講式を終えることができました。受講者のうちすでに管理者として活躍している方が約7割を占めており、なんと場違いな

所に来たのだろうと、参加したことへの後悔と不安でいっぱいになったことを思い出します。研修が進むにつれ受講者同士の理解と交流が深まり、毎回講師陣の話に惹きつけられ、有意義な時間を過ごすことができました。またグループワークでは同じ悩みを抱えた

仲間と解決に向けて前向きな意見交換や相談をすることができました。更に、講義を受ける度に新たな発見があり、学んだ内容を自部署に持ち帰り伝達したい気持ちでいっぱいでした。苦しんだレポート課題では、講義での学びから自分に置き換え、完成したときは達成感と自信を味わうことができました。管理者としてのあり方を理解し自分の立場での役割が何であるかを再認識することができたので、是非今後多くの中堅看護師に本研修への受講を薦めたいです。研修期間中は職場の上司・同僚の協力と心の支えがとても大きく、最後まで受講できたことに感謝します。

認定看護師教育課程

救急看護分野 準備室 救急看護認定看護師 阿部 雅美

公益社団法人和歌山県看護協会が救急看護認定看護師教育課程の教育機関として認定されました。

以前より和歌山県の救急看護認定看護師が不足していることを指摘されていました。また、近い将来予想されている南海トラフ地震や津波に備え、高度な救急看護に対応できるように救急看護認定看護師を育成することが必要であると考えました。そこで和歌山県の委託を受け、救急看護認定看護師教育課程の開講の準備を進めてきました。

準備に関わってくださった方々にお礼申し上げたいと思います。

これからはできるだけ多くの方に受験していただき、より質の高い救急看護認定看護師が飛び立っていただけるように準備いたします。

募集については和歌山県看護協会のホームページに募集要項を載せていますので一読いただければと思います。

医療安全対策委員会の報告



日頃は医療安全対策委員会活動へのご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。今回は当委員会の主な活動と、最近の取り組みについて、ご紹介したいと思います。

当委員会の主な活動としては、医療安全管理者養成研修会および交流会・フォローアップ研修会の企画・運営、医療安全に関する情報の発信等があります。

和歌山県看護協会では、平成17年度から医療安全管理者養成研修を開始し、平成25年度までの9年間で479名の医療安全管理者が誕生しています。また、各

医療安全対策委員長 澤田 康幸

施設のリスクマネジャーとしての悩みや、問題点、取り組み等の情報交換を行える場として、毎年交流会・フォローアップ研修会を開催しています。

情報の発信については、今年4月より、和歌山県看護協会のホームページに「医療安全情報」を新設しました。患者の安全管理を推進することに資する情報・ノウハウ・課題・取り組みを共有することで、各医療機関における医療安全対策に活かしていただくことを目的として開設しましたのでどうぞお役立てください。

今後も当委員会として、研修内容の充実を図り、ホームページによる情報の発信も積極的に行っていきたいと思います。どうぞご協力を宜しくお願い致します。

平成26年度和歌山県自殺対策緊急強化事業「こころとからだの悩み相談」を開催します

和歌山県看護協会では、「こころとからだの悩み相談」を開催します。

県民の皆様や貴施設の職員の方に周知いただきますようよろしくお願いいたします。

日時 平成27年3月1日(日) 13:00～17:00
場所 和歌山県看護協会 看護研修センター
相談 無料 来所相談 電話相談

医療安全

数珠つなぎ

白浜はまゆう病院

新谷 恭子



看護部リスクマネジメント委員長として、医療安全管理室と共働して、安全対策が実施できているか評価するために、月1回の院内ラウンドを行い活動しています。永遠のテーマである転倒転落への取り組みの中で、今年度は他職種と検討を重ね、転倒転落アセスメントシートを見直し、病院独自のシー

トを作成しました。

尽きることの無い医療安全への取り組み、歩みを止めず頑張っていきたいと思っております。

次回号に紹介させていただく方は
新宮市立医療センター 坂本 美弥様です

「新生児集中ケア認定看護師の活動」

和歌山県立医科大学附属病院 総合周産期母子医療センター 新生児集中ケア認定看護師

田村 正恵



新生児集中ケア認定看護師は、生後1週間以内のハイリスク新生児とその家族を対象に看護をしています。当院は県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊婦・新生児の治療と看護をおこなっています。NICUでは早産児や先天性疾患を持つ新生児を24時間体制で受け入れています。私たちの目標はNICUに入院する新生児が後遺症なく退院し、健やかに成長できる基盤をつくることです。

新生児は言葉を発することはできませんが、表情や身体の動きなど様々な形でメッセージを送っていることをご存知でしょうか？例えばあくびは一見リラックスしている状態に見えますが、実はストレスサインのひとつであると言われています。最近のハイリスク新生児の看護には児のサインを読み取って、個々の状態に合わせたケアをおこなうことが求められています。私は日々の実践の中で、ケア後のバイタルサインの変動やストレスサインの出現などの児の反応を評価し、実践能力を向上させることを大切に

にしています。また、病棟全体が質の高いケアを提供できるように取り組むことも私の重要な役割です。NICUの特殊性・個別性の高いケアを伝えるには、一緒に実践することや、考えていることを言語化することが重要だと考えています。スタッフと一緒に児の反応を確認しながらケアを行うことで知識や技術を伝えられるよう心がけています。また、最近取り組み始めた超緊急帝王切開時の初期ケアなど病棟内でスキルアップが必要なケアに対して勉強会やデモンストレーションなどを実施しています。

資格を取得して2年足らずでまだまだ自分の力不足を感じることも多いですが、「児の状態を考慮して照明の調節ができるようになった」「体温が早期に安定するようになった」など病棟内の小さな変化を大切に活動したいと思っています。ベストなケアとは何かをスタッフと一緒に考え、新生児と家族の力を育めるNICUを目指して取り組んでいきたいと思っています。

地域連携のコーナー

「医療相談室」の活動

医療法人 曙会 和歌浦中央病院 医療相談室

米澤 和江



当法人は、内科中心に透析や泌尿器科、眼科、整形外科等の診療を行っています。病棟は、一般病棟50床、障害者等一般病棟58床、医療療養病棟57床の計165床となっています。そして、訪問看護ステーション「コスモス」、居宅事業所「たんぼぼ」、介護老人保健施設「和歌川苑」を併設しています。医療相談室は、看護師1名、社会福祉士2名の3名で、入院の相談窓口として前方支援から、入院中の相談、退院に向けての調整等の後方支援にも関わっています。超高齢社会の中で、医療保険、介護保険の制度が日々変化していて、患者様や家族様が混乱をきたしている現状があります。それを支えながら安心して入院生活を送ってもらい、又安心して退院できるように、入院時から早期にケアマネジャーとの連携

を図れるように努めています。又、制度上の中で、金銭面、家族様の問題等で解決に至らないことに直面すると歯がゆい思いを感じながら相談に応じることもあります。その中で少しでも解決できるように、法人内の連携や他院の連携室に相談したりして、模索しています。これからの、地域包括ケアシステムの中での役割を果たせるように、研修に参加して各人研鑽しています。

当法人の指針は、地域の皆様から「親しまれ、信頼され、選んでいただける法人」となっています。医療相談室として、患者様、家族様の立場となり、医療者との橋渡しをスムーズにでき、この病院に来て良かった、安心したと言ってもらえるように今後も活動していきます。

訪問看護ステーションだより

訪問看護ステーションウェルビー

櫻井 三枝子

ターミナル期、神経難病、認知症などなど・・・医療依存度の高い方やリハビリを必要とする方が病院から退院してきます。しかし、悲しいかな、マンパワー不足。看護師もリハビリスタッフも、利用者とその介護者様に対して充分援助ができていないのか、希望に応えられているのか、悩むところです。ますます他のサービスとチームで支えることが大切と痛感します。制度が邪魔をして困難なことも多々ありますが、主治医やケアマネはもちろん、デイ、ショートステイ、ヘルパーさんと協力して在宅生活を1日でも長く、安心して過ごせるように努めています。

癌のターミナル期には緩和ケア病棟との連携も必要です。ELNEC の研修や退院カンファレンスに参加していますが、緩和ケアに対する知識向上も積極的に行きたいと思います。「訪問看護師さんがいてくれて安心」の言葉を励みに、今日もスタッフ全員、元気に訪問に出て行きます。



リレーエッセイ

友達の

輪

Vol.50

和歌山県立医科大学附属病院

中島 珠生

「仕事を楽しむ秘訣」

親の勧めで看護師になって早 15 年…。いつの間にか大好きな仕事になった。きっと人生の半分は仕事に費やす。それなら嫌々じゃなく、楽しい仕事をしようをモットーにして、見え方が随分変わった。そうなのは多くの患者さんとの出会いを経験したから。信頼し合える仲間に出会えたから。あと、大切なのはプライベートの充実。アラフォーなりに、スノーボー、マラソン、よさこいに最近では自転車も。全力で遊ぶことも仕事を楽しむ秘訣☆



今回は、和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院 谷口奈華子さんをご紹介します。

私の



私の癒しとストレス解消法

くしもと町立病院 久江 あゆみ



今年の4月より、外来・透析室・手術室の三部署兼務となり、忙しい毎日を送っています。しかし、9月に長女が産まれ、初孫が誕生。以来、毎日のように送られてくる孫の写メや動画が、何よりも私の心を和ませ、癒してくれています。

また、高校2年生の次女のバレーボールの試合を大声で応援することが、私のストレス解消にな

っています。強豪チームではありませんが、小学校3年から始めて、今も友達と仲良く続けている娘を誇らしく思っています。

寄る年波には勝てず、近くの文字が見えにくかったり、耳鳴りがしたりする今日この頃ですが、可愛い娘たちや孫のためにも、感謝しながら、まだまだ現場で頑張りたいと思っています。

My Hospital

海南医療センター

当院は、1939年に開設された前身の海南診療所から、1946年に海南市民病院として生まれ変わって以来、地域の中核病院として市民のみなさまに親しまれてきました。半世紀を経過し近年の医療情勢はめまぐるしく変化する中で市民のニーズも多様化し施設の老朽化もあって2013年に新築移転し「海南医療センター」としてスタートしました。交通の便は以前に増して良く、JR海南駅西口直線で歩いて5分、また阪和自動車道海南インターを降りて北へ5分です。

基本理念も刷新「**KiC 博愛と信頼 市民**とともに新たな進化をめざして」とてもシンプルになりました。

新病院では外来化学療法室が4床になり、スペースも広くゆったりと静かな環境で治療を受けていただけます。7月には血液内科の専門医師が赴任され、入院される化学療法の患者さんも増え、がん化学療法看護認定看護師とともに看護の質向上に取り組んでいます。

内科病棟では高齢の肺炎患者さんが多い傾向にあり、摂食嚥下障害の認定取得に向け現在1名頑張っています。また感染管理認定看護師は院内活動は勿論のこと、リンクナースとともに地域に出向き介護施設・保育施設の職員に感染対策の指導、啓発に関わって



看護部長 中野 美枝

います。

また、手術室では念願のBCRを1室設け整形外科の手術件数がぐんと伸びました。そして昨年から在宅医療連携拠点事業も進行中であり地域との連携を図っていきます。訪問看護ステーションでは居宅介護支援事業も併せて行っています。療養環境の一つとして、屋上庭園を造っていただきました。患者さんや家族さんの憩いの場、癒しの場となっています。

看護部は、豊かな感性と思いやりと優しさで患者さんの視点に立った医療を提供し、患者さんは「満足できる看護が受けられる」私たちは「看護を提供する喜びが感じられる」これをめざしてがんばっています。



新看護研修センター建設資金としてご寄付をいただきました。

ライフパートナー 岩橋 杉子 様 5万円 心より感謝申し上げます。



心地よい眠りで、あなたの元気を応援します。

東洋羽毛のゴア® 羽毛ふとん

汚れのもとになるものは、ふとんの中に入りません。

寝ているときの汗は、こもりません。

まるでふとんが、呼吸をするように

いつも衛生的で、心地よい温かさを保ちます。

温かいを超えた、至福の寝心地を、

是非お試しください。



TUK
東洋羽毛関西販売株式会社

和歌山営業所
〒640-8329 和歌山県和歌山市田中町2-18-1-2F
☎ 0120-32-7766
ホームページアドレス <http://www.toyoumo.co.jp>

清潔・きれい・衛生
Bedding Products

和歌山県看護協会の動き

平成26年度第6回理事会

開催日時：平成26年12月10日（水）13：00～16：00
会場：B室

I 協議事項

1. 平成28年度日本看護協会代議員・予備代議員の選出について……………承認
2. 公益社団法人和歌山県看護協会 特定資産取扱規程について……………承認
3. 平成26年度収支補正予算について……………承認
4. 第48回（平成29年度）日本看護学会学術集会について……………第49回（平成30年で検討）

II 報告事項

1. 人事について
2. 公益社団法人監査報告について

3. 認定看護師教育課程開校について
4. 日本看護協会理事会、近畿地区法人会員会報告
5. 地区別職能委員長会議報告
6. 日本看護協会事業担当者報告
6. 和歌山県看護協会事業に対する提案要望事業について
7. 日本看護協会名誉会員及び、日本看護協会会長表彰推薦について
8. 新看護研修センターについて
9. 県内関連団体会議参加報告
10. 会員数について
11. その他

潜在看護職員復職支援研修を開催

常任理事 山本 喜久子

本事業は、未就業等の看護職員が最新の医療や看護に対する知識・技術を学び職場復帰を円滑にすることを目的に、平成22年度から開始し、今年で5年目を迎えました。

第1回は、平成26年11月11日から20日まで2コースに分けて実施しました。参加者は12名でした。講義内容、病院実習施設は下記のとおりです。

研修終了後の参加者から、「できるだけ早く就職したい」2名、「職場復帰ができそうだと思うようになった」7名で、前向きな意見でした。

第2回目は、27年2月12日（木）から18日（水）の内5日間、田辺市のビッグUで計画いたしております。和歌山県看護協会では、今後も安心して職場復帰ができるよう積極的に支援して参ります。

記



講義内容	講師氏名
感染管理	永崎 昌枝 感染管理認定看護師
看護の動向	古川 紀子 和歌山県看護協会会長
救急看護	早田 修平 救急看護認定看護師
災害看護	西川 滋子 感染管理認定看護師

実習施設	
橋本市市民病院	日本赤十字社和歌山医療センター
和歌山労災病院	やすだ堀口記念病院
宇都宮病院	琴の浦リハビリテーションセンター附属病院
河西田村病院	中谷病院
田辺中央病院	済生会有田病院
紀南病院	

平成27年度改選役員、推薦委員および平成28年度日本看護協会代議員、予備代議員への立候補・推薦について

《選挙管理委員会からのお知らせ》

平成27年6月13日（土）に開催する定時総会において27年度改選役員、推薦委員および平成28年度日本看護協会代議員、予備代議員の選挙を実施致します。立候補される方は、正会員5人以上の推薦を受けて、立候補届出用紙を下記に郵送してください。

【改選役員数と役職等】

1. 理事
専務理事1名、書記長1名、保健師職能1名、助産師職能1名、看護師職能11名、
2. 地区理事
3名（和歌山、海南・海草、新宮・串本）
3. 推薦委員 6名（任期1年）
4. 平成28年度 日本看護協会代議員6人
予備代議員6人

【立候補基準】

- 1) 和歌山県看護協会の目的達成のための活動に積極的に任務を遂行できる人
- 2) 和歌山県看護協会の会員歴5年以上で、協会組織を理解している人
- 3) 和歌山県看護協会が定めた会議に出席できる人

【受付期間等】

立候補届出用紙は和歌山県看護協会にあるのでご連絡ください。

<送付先>

〒641-0036 和歌山市西浜1014-27

和歌山県看護協会 選挙管理委員長長宛（親展）

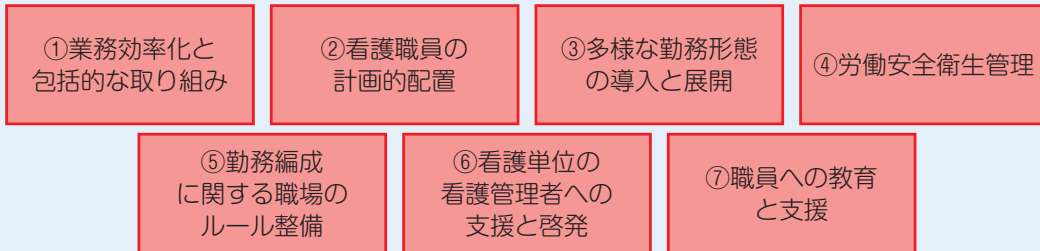
<提出期限> 平成27年2月20日（金）必着



あなたのために、できること あなたに、できること

■夜勤交代性勤務 人事労務管理のポイント

夜勤交代性勤務の改善に向け、「勤務編成の基準」を踏まえて人事労務管理を展開していく必要があります。ポイントとして7つを挙げています。これらについて丁寧にマネジメントを行い、PDCAサイクルで継続的に取り組みます。



■ガイドラインについて よくあるご質問

Q1 夜勤・交代制勤務を改善するためには、このガイドラインの夜勤・交代性勤務の「勤務編成の基準」の11項目すべてに取り組みないといけないのでしょうか？

A1 夜勤・交代制勤務の「勤務編成の基準」11項目すべてを一気に取り組みようと考えずに、まず1つでも、2つでも可能なものから取り組み、成功例を重ねていく事が現実的です。まずは夜勤・交代性勤務のリスクについて認識し、職場で共有する事から始めましょう。ただし、どのような勤務形態であっても、一人一人の看護職の健康や安全を守るために、最低限整備しなければならない条件があります。「勤務編成の基準」はその整備すべき条件を示したものです。

Q2 このガイドラインに沿った勤務体制にするために、増員は必要でしょうか？

A2 増員が必要かどうかは、それぞれの現場の現在の体制や、今後どのように夜勤・交代性勤務に取り組んでいくかの方針によって違ってきます。現状で夜勤・交代性勤務の改善に取り組むためには、「増員しなければ取り組めないのだから無理だ」と諦めてしまうのではなく、少しずつでも勤務体制の改善による効果を上げ、定着率を上げていき、必要性に合わせて増員の対策を考えていきましょう。

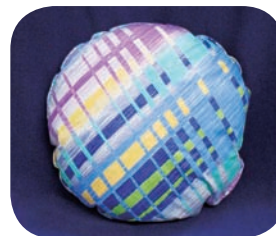
第20回

プレゼント!

はがきに ①希望の商品名 ②氏名 ③会員番号 ④郵便番号・住所 ⑤電話番号 ⑥勤務先名 ⑦本紙へのご意見・ご要望を明記の上、2月25日(水)までにお送りください。

(消印有効・1人1通のみ)

抽選の上、当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。



「足まくら」を
2名様に!

どちらか1つ
当たります!

「図書券」
1,000円分を
3名様に!

宛先 〒641-0036 和歌山市西浜 1014-27 和歌山県看護協会 「1月号プレゼント」係

プレゼント
応募者の
声

- 知人が載っていたり、みなさんのご意見を読ませて頂いております。
- いつも楽しみに黒潮を拝見させて頂いております。盛り沢山の内容で参考にさせて頂くところばかりです。